

令和5年度有田川町青少年育成町民会議主催

有田川町少年メッセージ

優秀作品（順不同・敬称略）

最優秀賞

「あたり前」ができる幸せ」

石垣中学校1年 上西彩友

「平和のバトンを、日本から世界へ」

吉備中学校3年 佐々木杏奈

優秀賞

「これからのマスク生活について」

金屋中学校2年 河野志音

「命の大切さ、尊さ」

吉備中学校1年 中尾未来

「たった一人の一言で」

吉備中学校2年 塩崎梨温

「未来へ残せ！地域の思い」

八幡中学校2年 白藤絢士

入賞

「友達とは」

吉備中学校1年 中上心花

「思いやりのポケット」

吉備中学校3年 松坂美奈

「あなたの名前は何ですか？」

吉備中学校3年 江川好香

講評

有田川町少年メッセージは、中学生が日頃の生活を通して感じていることや考えていることを発表することにより、社会の一員としての自覚を高めるとともに、中学生に対する町民の理解や認識を深め、青少年健全育成活動の一助として開催しているものです。

今年、町内4中学校から総数622作品の応募があり、一次選考を通った23作品について審査を行いました。今年の作品は、日本語、言葉、SNSなどの言語に関すること、祖母、弟、友達など自分の身近にいる人物に関すること、SDGsや平和などグローバルな問題に関すること、学校生活、思春期の心の葛藤に関することなどをテーマとしていました。時代を超えても変わらないテーマがありますが、その切り口や着眼点には、その時代の特徴がよ

有田川町少年メッセージ審査委員長
小川小学校校長 林 寿和

く反映されていました。その中で、メッセージの主張の展開や話の内容が論理的に構成されているもの、中学生らしいみずみずしく鋭い感性が感じられるもの、単に自分の体験を述べるにとどまらず、提案や意見を社会的、一般的なものとして実践しているという意欲が感じられるもの9作品を選出し、8月20日（日）に有田川町少年メッセージ発表会を開催しました。発表された皆さまのメッセージは、どれも素晴らしく、若者らしい広い視野と柔軟な発想、創造性にあふれた内容で、発表も中学生らしいはつらつとしたものでした。応募してくれた中学生の皆さま、これからも今回の経験を生かし、他者を思いやる心と大人になって自分でも考えていくたくましさや身に付け、未来に向かって、大きく羽ばたいてほしいと思います。